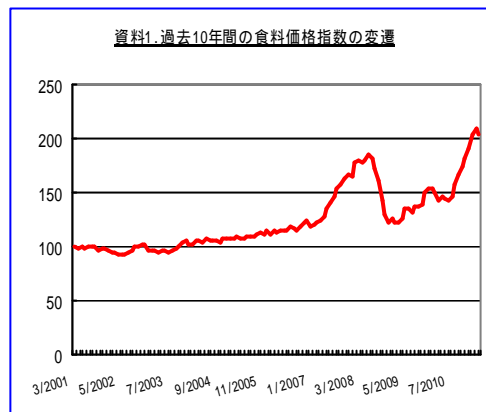


穀物高 再び食卓を直撃

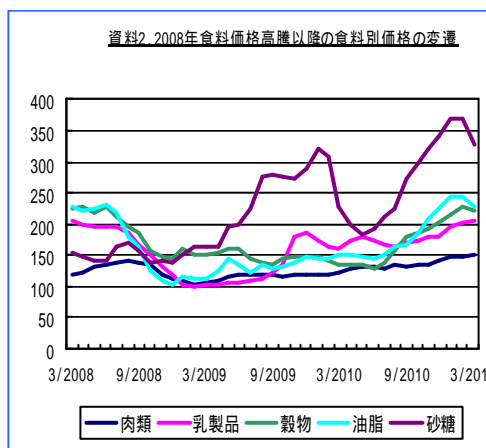
～ 2008年の食料価格高騰を凌ぐ最高水準

世界的な穀物価格の上昇が、日本の食卓を再び直撃し始めた。2007年後半から2008年前半に、国際社会は記録的な食料価格の高騰を経験し、途上国で暴動や抗議デモが頻発したことは記憶に新しい。食料価格は、昨年後半から再度上昇傾向にある。食材に幅広く使われる小麦の国際価格は1年で約65%上昇、他トウモロコシ約110%、大豆約50%、コーヒー豆も約80%上昇した。17日、パン最大手の山崎製パンが小麦価格の高騰を背景に3年ぶりの値上げを発表した。食パンは小麦の使用比率が高いので7%の値上げ、菓子パン、和洋菓子は5%。敷島製パンやフジパングループも値上を実施する方針。



世界人口 10月末に70億人へ

国連は世界の人口が今年10月末に70億人に達し、2050年までに93億人、2100年までには101億人を超えると予測する「世界人口推計2010年改訂版」を公表した。人口増が見込まれるのはサハラ砂漠以南のアフリカ39カ国や、パキスタンなどアジア9カ国、ボリビアなど中南米4カ国。現在は13億人の中国は30年ごろに14億人近くに、12億人のインドは60年ごろに17億人に達し、それぞれピークを迎えると予想されている。米国も移民の受け入れとヒスパニック系(中南米系)の出生率の高さなどから人口増が続き、現在の3億1038万人が2100年には4億7802万人になる見通しだ。



ゼーリック (Robert Zoellick) 世銀総裁は、前回の食料価格の高騰により、途上国の1億人を超える人口が一日1ドル25セント以下で生活する最貧層に転落したと推定したが、今回の食料価格上昇によって、途上国では新たに4,400万人が最貧層入りし、更なる10%上昇は1,000万人を最貧層に追いやると警鐘を鳴らす。特に、主食を輸入に依存する途上国では、反政府運動や社会不安が懸念されている。

国連食糧農業機関 (FAO) に

(次ページへ続く)

	自然要因	人為的要因
供給	洪水/水害 (オーストラリア、ブラジル、ウクライナ、米国中西部、パキスタン、ポーランド他) 旱魃 (中国、ロシア、ブラジル・アマゾン地域他)	バイオ燃料への利用増加 (トウモロコシ、サトウキビ、パーム油、大豆油等) バイオ燃料用穀物作付け拡大による伝統的食糧作付け減 (米国のトウモロコシ、タイのカッサバ等) 穀物輸出国の輸出規制 (ロシア、ウクライナ、パキスタン他)
需要	途上国の人口増と食生活の変化 (中国、インド他)	バイオ燃料増産 食料備蓄拡大 (中国、農業開発アラブ機構、マレーシア他)
その他	エネルギー価格の高騰	エネルギー価格の高騰 (輸送、肥料・農薬、梱包価格上昇等) 農産物への大量の投機資金の流入 外国政府/外国企業による途上国農地の買収、長期リース (エチオピア、スーダ) ドル下落、現地通貨高

出典：世界銀行、国連食糧農業機関、主要紙

(前ページより続く)

よると、砂糖、油脂、穀物、乳製品、肉類の5分野からなる食料価格指数は、2008年の記録を凌ぐ最高水準に達している(前ページ資料1)。本年3月の食料価格指数は昨年3月比37%上昇し、特に穀類は同60%、油脂は48%、砂糖は40%上昇した(前ページ資料2)。現在の食料価格高騰は、穀物生産国における自然災害による供給減、中国、インド等の新興国での需要増に加え、農産物輸出規制や備蓄拡大等の政策的介入、短期売買で利益を狙う食糧投機資金の大量流入、バイオ燃料の促進政策等の影響が背景にあると分析されている(前ページ資料3)。

秋肥価格(6 - 10月)値上げ、肥料価格高騰再燃か？

米国のトウモロコシの2011年8月末の在庫率予想は5.43%と15年ぶりの低水準で需給逼迫がなかなか解消しない。バイオ燃料の主たる原料であるトウモロコシとサトウキビの価格高騰は、「食糧対燃料」の議論を再燃させている。背景にあるのは、世界最大の砂糖輸出国であるブラジルやオーストラリアでの洪水により砂糖の生産が影響を受け、本年1月の砂糖の価格は昨年最低であった5月の価格の2倍近くに高騰した。ブラジルのサトウキビ生産者は高値の砂糖を増産し、フレックス自動車の普及による需要増とも相俟って、サトウキビ原料のエタノールは供給不足となっており、ブラジルは昨年4月以降毎月米国からエタノールを輸入している。

そのため世界のトウモロコシ生産の約4割を占める米国において、エタノール生産に使用されるトウモロコシが、2007年総生産量の約20%から2010年には40%まで拡大したことから、米政府のエタノール促進策に批判の矛先が向けられている。実際、米国のトウモロコシの本年3月の価格は1年間で83%近く上昇している。米国では2005年に再生可能燃料基準が立法化され、2022年までに、2010年のエタノール生産量の3倍に相当する360億ガロンのバイオ燃料使用が義務付けられている。昨今の石油価格の高騰でエタノール価格も上昇しており、更なるエタノール増産と肥料需要増が見込まれ、挽いては肥料価格高騰再燃の要因となる恐れもある。6月から全農秋肥価格(6~10月)が3.2%値上げされるが、特に窒素質の上昇が大きく更なる値上げも予想される。

今月の野菜 レタス (Lettuce)みずみずしい、さわやかな苦味の野菜

レタスは、淡い緑色で新鮮さを連想させる葉のツヤと、パリッとした食感とシャキッとしたみずみずしさが、サラダの主役として食卓を楽しませてくれます。植物学上の分類はキク科です。原産地は地中海沿岸から西アジア。レタスは気象条件の影響を受けやすく生産量が著しく増減する野菜ですが、国内では1960年代頃から栽培が始まり、長野県(夏秋)や茨城県(春)長崎県(冬)と産地リレーが確立され1年を通じて入手できます。



美味しい結球レタスは、表面につやがあり、重すぎず、弾力のあるもので、切り口が10円玉ほどの大きさが新鮮さの証拠です。葉が濃い緑色で、ぎっしり詰まった重いものは固くて苦味がありますので避けましょう。

レタスは、成分の95%が水分ですが、ビタミンやミネラルなど、体に必要な栄養素をバランス良く含んでいます。レタスは、サラダや肉料理のつけ合わせに欠かせない食材です。レタスに多く含まれる栄養成分では、カロチン、ビタミンC・E、カリウムが挙げられます。レタスのさわやか苦味の成分は、「ラクチュコピクリン」です。ポリフェノールの一種でレタスの切り口に出る白い乳状の液体に含まれています。軽い鎮静作用や催眠促進の効果があることが知られています。(出典：月報野菜情報：(独法)農畜産業振興機構)

レタスだけを使ったサラダを英語で「ハネムーンサラダ」とも言うそうです。Lettuce only、もしくはLettuce alone(レタスだけ)の発音をLet us onlyやLet us alone(私たちだけにして)に引っ掛けたものとの事。海外にお出かけの際、メニューに記載されてるか探してみたいか? (もしくは、通じるのか試してみたいか?)

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>